

平成 21 年度まちづくり懇談会会議録【六郷地区】

日 時 平成 21 年 7 月 17 日 19 : 30 ~

会 場 アエル 小ホール

参加者 56 人

副病院長からの「地域医療を守り育てる」と題した説明のあと、参加者の皆さまとの懇談(質疑応答)に入りました。

懇談(質疑応答)

菊川市立総合病院や地域医療に関すること

上本所自治会より: 広域的な公立病院間の連携強化について

公立病院における医師の確保は、健全な病院経営にとって欠くことのできない重要課題であるが、確保対策として施設整備や最新医療機器の配備、給与等待遇面での改善措置、余裕ある人員体制の確立などを図ることは、厳しい財政のなかで相当の困難が予想される。

一公立病院がこれらの確保対策をすべて実施することは、健全な財政運営と両立しないばかりか、近隣の公立病院間での過当競争にも発展しかねない問題を孕んでいる。

公立病院が総合病院を名乗るからといって、満遍なく診療科目を揃える必要はなく、ある病院では循環器科に予算を集中し、ある病院では脳神経外科にと、各公立病院がそれぞれ特色を出しながら、今や格段の交通網の進歩があるため、広域的な公立病院間での連携強化を図ることによって、これが医師確保の堅実な方策とならないかと考えるがいかがか。

副病院長

御前崎総合病院とは、平成20年3月27日に医療面での連携と強化を図るため協定を締結しています。また、それぞれの公立病院が弱い診療科を補完する連携体制をとっています。

今後も近隣の公立病院と連携をとって行きます。

打上自治会より: 菊川市立総合病院と御前崎市立病院の広域合併について

掛川・袋井市立病院の合併に見られるように、このままでは菊川市だけが将来取り残される可能性が高く、以下のことを早急に検討願いたい。

菊川・御前崎両市の早期協議開催

上記 が不調の場合、民間医療機関との業務連携（例えば聖隷病院・静岡済生会など）

上記 が不可能な場合、医師を含め、医療従事者への待遇改善（公共事業の見直し・公用車廃止を含め、経費削減の徹底に努める）に向け、あらゆる手段を講じ、医療従事者不足の解消を図り、地域医療の安全を考えてほしい。

副病院長

御前崎総合病院とは、平成20年3月27日に医療面での連携と強化を図るため協定を締結しています。

病院の運営形態は、市が運営すべきものと考えています。

今後も収益事業の見直しと経費の節減に努め、医師、看護師等医療スタッフの確保に努めます。

牧之原上自治会より:菊川市立総合病院のことについて

平成20年度の収支は赤字が見込まれるそうですが、医師不足の状況で病院経営も非常に大変な時代だと思えます。

平成21年度、新規採用18名の職員も加わり、診療体制も4月から変わりましたが、お年寄りの人たちには少し手間が掛かり、難しく、遠くの病院に感じます。「開業医への受診後、紹介状を持っていかないと診てもらえないなら他の病院に行く」ということも耳にしています。

今後ますます増えるお年寄りが周辺の病院に行かなくても良いような方策はありませんか。

副病院長

内科の医師の減少により、このままだと重症の救急患者や入院患者への対応などができなくなる恐れがあります。このため、開業医などの先生からの紹介状を持参していただくよう、本年（H21年度）の4月からお願いをしております。

お年寄りも含めて、急な容態の変化があった場合で、紹介状がない場合は、状態を確認した上で対応させていただきます。

青葉台3丁目自治会より:市立総合病院の内科紹介状をやめたらどうか

長い勤めを終え、今度は総合病院で診てもらいたいと思っていたところ、紹介状がなければだめだとのこと。知る限り、開業医はなかなか紹介状を書こうとしないし、こちらからも言い難い。

市立病院の医師が業務多忙でいなくなったとしても、近隣の総合病院か近くの開業医へ行くこともできる。患者も半日掛かりで行くのであるから、その辺の意を汲み、赤字を少しでも解消するためにも門戸を開放してはどうか。関係者の努力は必要と思うが、意識を少し変えてみては。

副病院長

先ほどのご質問への回答と同じになってしまいますが、内科の医師の減少により、このままだと重症の救急患者や入院患者への対応などができなくなる恐れがあります。このため、開業医などの先生からの紹介状を持参していただくよう、本年（H21年度）の4月からお願いをしております。

お年寄りも含めて、急な容態の変化があった場合で、紹介状がない場合は、状態を確認した上で対応させていただきます。

上本所自治会より:地域における菊川市立総合病院の機能について

多種多様な問題が山積している地方の自治体病院。菊川病院も例外ではないことは周知の事実である。私たち住民はどうすることもできず、日々の暮らしの中で不安を抱えているばかりである。

私の知人の体験談であるが、急激な下腹部の激痛で菊川病院を受診したら、予約が入っていないからと追い帰された。やむを得ず掛川病院に駆け込んだら、すぐに診察してくださり、数日の入院で退院して来れたとのこと。

近隣の同じ市立病院で、この対応の差はいったいどこにあるのか。もちろんこの知人は菊川市民である。

副病院長

菊川病院は、命にかかわるような危険な状態の方、重症の方を優先的に診察する体制を整えています。

医師が速やかに重症の方を診察できる、現在の体制を維持するために、予約や紹介状の持参を引き続きお願いしていきます。

宮下自治会より:高齢者医療費削減について

以前にテレビ番組を見ていて感じたことですが、ある地方の村でトレーニングセンターを設置し、健康増進と体力づくりのため、特に高齢者への利用促進を図った結果、病気治療が病気予防へと方向転換が図られ、医療費削減にもつながったとの報告を思い出しました。病院にも温水プールを設置したらどうでしょうか。

副病院長

敷地、建設費の問題、安全面への配慮から温水プールなどの体育施設の建設は困難です。転倒防止教室や訪問リハビリなど、高齢者が健やかに過ごせるよう支援を行うことを考えております。

会場からのご意見・ご質問

男性

医療機器の購入には、国の補助制度が利用できるのでしょうか。それとも病院で購入するのでしょうか。

また、このような機器は古くなったり使用し辛くなったりするのでしょうか。

また、性能によって初期で疾患を発見できるだとかなるべく高性能で必要な機器を整備してもらいたいです。たとえば、リース等により最新のものを導入できようにするのもよいのではないのでしょうか。

副病院長

医師から意見を聞き、必要性の高い物品を購入しています。補助についてはありませんが市からの協力があります。

CT等はより早くきれいに撮影できるものがでていますが、最新鋭のものをその都度導入するようなことはありません。ただ、耐用年数がありますので、期間が過ぎたものは購入します。また、前回と同じものを必ず購入しているわけではなく、現状に合わせて購入しています。

リースの方が安価であればリースで導入していくよう検討します。

まちづくり全般に関すること

上本所自治会より:煉瓦造りの建物保存について

菊川市のまちづくりの方向性として、特色のあるまちづくりを考えるべきである。JR菊川駅を降りて目にする街並みは、なんらその辺の町と変わらない、特色のない町に映る。少なくとも、「お茶のまち 菊川」をうたおうとするなら、昔お茶の倉庫であったという煉瓦造りの建物を「まちづくりのシンボル」として残すことはできないのか。使用目的はギャラリーであったり、お茶の歴史館であったり、美味しい菊川茶を振る舞ったり、市民がくつろげるスペースであったりと、いろいろ考えられるのではと思う。

保存費用や維持管理費は、寄付方式で募ることも考えてみたらどうか。

建設経済部長

赤レンガの関係でございますが、このご質問いただいた方、区画整理事業を駅の南側でやっていることはご存知かと思えますけども、この赤レンガそのものは現在進行中の区画整理事業の中にある建物でありまして、この区画整理事業そのものにつきましては、居住環境を整備したいということと、もうひとつは商店街の振興をあわせて図っていきたいというこの二つを目的として起こしたのが区画整理事業でございます。この事業につきましては、およそ四半世紀をかけて今日を迎えているところでございまして、全体面積が13.6ヘクタール、それから、およそその中にある建物については399有るわけですけども、その399いずれも移転をしていただくと、そういった計画でありまして、総事業費が158億4千万円を事業費としてやっているところでございます。そういう中で赤レンガの倉庫があるわけですし、現在399戸の移転対象の建物のうち赤レンガを除く398戸の建物はいわゆる移転の交渉に応じていただいて、契約を済ませていただいているということでございます。そういうことで市といたしましては、所有者の方に引き続き計画に応じていただけますよう協力をしていくということで考えております。したがって、このご質問の中にありますように保存のための費用、そういったものを寄付方式でいわば市が主体となって寄付を求めるということは現在考えておりません。

上本所自治会より:上本所地域の道路整備について

上本所と仲島を連結する菊川に架かる橋の計画はどうなっているのか。

鈴木無線さんから上本所へ通じる道路整備の都市計画はどうなっているのか。

建設経済部長

上本所と仲島を連結する菊川に架かる橋、それから鈴木無線から上本所へ通ずる道路、このいずれも都市計画で決定がされたものでございます。で、市内には道路の関係で申しあげますと、都市計画決定された道路というのは、市内に全部で22路線が計画決定されてありまして、その総延長がおよそ41キロメートルに及んでいます。この22の計画決定した路線の内、今現在まったく手が付けられないといったものが4路線ございます。それから、完成をしたといったものが3路線ございます。じゃあ、他はどうなんだということでございますけども、他の路線についてはまだ、完成にはいたっておりませんで現在、工事を実施中あるいは途中で道路が先に進まずに工事が休止という状態になっているもの、そういう状況がありまして整備率で申し上げますと、先ほど申し上げましたおよそ41キロの内20キロ、率で申し上げますと48.9パーセントの距離

については整備が完了していると、いわば未整備のところは51.1パーセント21キ口、まあ、計画した路線の半分については現在、整備が完了しているという状況でございます。まあ、現下の経済情勢それからご案内のとおり菊川市内道路あるいは河川だとかJRの東海道線が走っていたり、東名高速道路が走っていたり、こういった地形地物が大変たくさんあるところがございます、とりわけ河川が大変多い地域でございます。そういったことでなかなか事業が進捗していかないという状況はありますけれども、今後におきましても財政状況を含め、整備の緊急性あるいは必要性といったものを再度考えながら整備に努めてまいりたいと考えておりますので、また、ご協力のほどよろしくお願いいたします。以上でございます。

打上自治会より:コミュニティバスの再検討について

コミュニティバスの利用状況を見るにつき、利用率が高いとは思いません。採算上、どちらが優位かわかりませんが、タクシーチケットとの比較を行い、補助金の節減に努力されたらいかがでしょうか。情報公開をお願いするものです。(タクシーチケットの配布条件と配布先の調査厳格化)

市民生活部長

コミュニティバスの利用率につきましては、平成20年度の実績でございます。1日あたりの平均で132人の方がご利用をいただいております。1便当たりにはしますと平均しまして1便あたり4.4人の方が利用しております。市民の公共交通の足として市民の方に利用されているという風に理解をしているところであります。なお、経費の関係ですけれども、1人あたりの必要な経費としましては、コミュニティバスですと704円、ちなみにタクシーの初乗り料金とお迎え料金の合計額が800円ということになりますので、コミュニティバスが若干下回るというふうに思っております。それから、タクシー券との関係をご質問いただきましたけれども、実は福祉タクシー券につきましては、平成19年度の事業をもって終了いたしました。この理由につきましては、菊川市が合併する前に菊川町と小笠町の下にまちづくり計画を作っていただきました。合併前に。その時に新市になって速やかに一体性を持つということの中で、コミュニティバスを走らせて一体感を持たせるというような委員の方の貴重な意見をいただきまして、その意見に基づきまして菊川市はコミュニティバスの事業を導入したという経緯があります。したがって、現在は福祉タクシー券については事業は廃止をしております。今後も市民生活の公共交通の足としてですね、多くの方にこのコミュニティバスが利用していただけるよう、いろんな市民の方の意見を聞きながら対応していきたいと、こういうふうに考えて

おりますので、ご理解をいただきたいと思ます。

宮下自治会より: JR 駅南の今後の見通しについて

駅前には完全に整備され、きれいになりましたが、その周辺は静か過ぎて活気がない。今後はどうなるのか。

総務企画部長

駅前周辺整備の今後の計画についてでございます。駅前には完全に整備され、きれいになったが、その周辺は静か過ぎて活気がないと、今後はどうなるのかというご質問でございます。菊川市の玄関口としまして、また、中心商業地としてふさわしい健全なる市街地の形成を図るためにですね、昭和 60 年度から整備を進めてまいりました。この駅南区画整理事業も平成 23 年度をもって終了することとなりました。実に 27 年もの歳月をかけたわけでございます。この間市民の皆さまにも大変大きなご協力をいただきました。大変ありがとうございます。なお、今後の駅前周辺の整備につきまして、現在のところ具体的な計画はございません。そういったことで、菊川市の更なる発展のために地域の皆さまの今後、ご意見をお聞きしながらですね周辺整備についても、また、考えていきたいというふうに思っております。ということでよろしくお願いいたします。

上本所自治会より: JR アンダー以北の道路計画について

菊川市は地理的に広狭は別としても、いろいろな面で東西の狭間にあり、住民生活もそれを基に成り立っている。

そんななかで、鉄道・県道・高速道も市内を東西に走り、日常的に利用しているが、国道 1 号線は実際の距離以上に遠く感じる。私は仕事でよく浜松や静岡に車で出かけますが、国道 1 号線までスムーズに行く道がなく、いつも残念に思っています。

市ではよく、駅北開発を念頭に JR アンダーの話をし、莫大な予算を投じていますが、その先、つまり国道 1 号線までの計画の有無がはっきり聞こえてきません。静岡まで約 50Km、途中で信号がないので、流れがよければ 1 時間で着くことができます。浜松へも同様で、利用価値は極めて高いはずで。

折りしも、市のマスタープランの見直しの時期ですが、現計画にあるのであれば実施の優先度を上げ、無いのであれば、市の南北の主軸として明確に位置付けし、計画に取り込んでもらいたい。

一部は他市にも関連し、容易ではないと思ますが、御前崎の海路や開港した新空港にも近接した当市の今後の発展に不可欠な道路整備だと思ます。

総務企画部長

駅北の道路整備計画についてご質問いただきました。実は駅の東側で今JRアンダー、JRの下をくぐる朝日線の一貫の工事をしております。その工事が終わってからですね、その北側、おそらく掛川の日坂方面ですね、国道一号線までのところの整備計画があるなら優先度を上げて欲しいと、もし、無いのなら市の南北の主軸の道路として、計画に明確に位置付けていただきたいというような要望ですね、そういった事がございます。

まず、この都市計画道路の朝日線ですが、主要地方道の吉田大東線から市道の柳坪線、これ駅の北側の道路なんです、この間の320メートル区間で整備の工事をしております。これは平成7年に事業認可というものを受けまして、用地買収から現在もJRに委託して工事がほとんど、今年度一杯でJRの下を抜く工事が終了します。また、今後この320メートルを整備するという計画でございまして、この平成17年度から着手した朝日線アンダー工事につきましては、今年度終わるという中で平成24年度まで、その前後あわせまして24年度までに事業認可を受けました320メートル区間の工事を完了したいというふうに計画しております。これはやはり駅の北、南を結ぶ主要の幹線道路として地域の皆様をはじめとして多くの方々に利用していただけることとなります。ご質問の市道柳坪線から北側の計画につきましては、現在のところは総合計画等に具体的な計画は載っておりません。そういう中で今後新たな社会情勢の変化、周辺の今後の菊川市としての土地利用の状況等を考慮しまして、広域を結ぶ道路としての役割を担っていける路線であるということは、我々も十分認識しておりますので、地域の皆様のご意見をお聞きして今後の整備計画等を立っていきたくと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

青葉台3丁目自治会より:自治会役員の業務負担軽減等について

業務が大変なのか、なかなか自治会役員を引き受けたがらない。勤めをしている人でも、気軽に受けられるようできないものか。

公平性を保つためにも、道路は極力、東西南北“碁盤の目”にしてほしい。町部を離れ遠くへ行くほど、狭くて使い勝手が悪く、わかりにくい。

市民生活部長

自治会役員の業務負担の軽減等についてであります。日頃大変自治会の方に負担をかけているということで大変恐縮に思っております。菊川市におきましてはまちづくりの基本方針といたしまして、市民と行政との共同のまちづくりということで合併以来事業を進めております。そういう中で多くの情報を市

民の方に提供して、まちの行政の内容を理解していただきたいということで対応しているわけですが、どうしても自治会の役員の方に頼ることが多くなっているという状況については、私共も反省をしなければ駄目だと思っております。また、行政を運営していく中にありましては、やはり団体、あるいは組織の協力をいただきながら地域づくりあるいはまちづくりを行っていく必要があります。その結果としてそれぞれの自治会の皆様方に大きな負担になっているというふうになるわけですが、地域住民の皆様方の協力を得ることで、私共も行政を効率的な運営ができるということでもありますので、ぜひ、この点はそれぞれの自治会で役割分担等をお願いして私共のまちづくりにご協力とご理解をいただきたいと、こんなふうに思っておりますので、よろしくお願いをいたします。以上でございます。

建設経済部長

すいませんでした。お答えのところに記載してあるところでありますけども、ここに書いてありますとおり、道路って言うのはやっぱりそれぞれ道路の持つ機能があります。簡単に申し上げますと高速道路って言うのはやっぱり広域の流通、点と点を結ぶ早く走って人や物を運ぶという大きな機能があります。同様に現在建設をしております、掛川浜岡線のバイパスがございますが、これにつきましても御前崎、それから元の小笠町それから菊川町それから掛川市、ここを結ぶ幹線のルートについて、ここにはどういう機能を持たせると言いますと、やっぱりこれは指定がされているわけですが、緊急物資のいわゆる緊急輸送路という位置付けもされていると、それから、例を申し上げますと区画整理事業をやっているところに、その周辺にお住まいの皆さんが日常的に使う道路、こういうわけで道路にそれぞれ意味を持たせてあるわけでございます。そういうことでお答えしてありますように、道路を大きく大別しますと市民の生活に密着した生活道路、それから、広域を結ぶ幹線道路、この二つに大別されるであろうというふうに考えております。生活道路につきましてはその道路、住宅道路との接合、整合を重視しないと市民の皆様方の生活に大変大きな影響が出るというふうに考えます。幹線道路につきましては、広域的な接続と通過交通を市街地から排除する、こういった事も大きな意味を持った道路ということでありまして、そういったことを目的に道路を作っていくという事でございます。2番目の時にちょっと触れておきましたけども、菊川市に関してみますと河川が非常に多いということ、また、東名高速道路あるいはJR東海の本線、こういった地形地物が大きな道路を作り変えるって考えたときにやっぱり大きな障害要因と言いましょうか、必ずしも道路をまっすぐ作る必要は無いんですけども、まあ、計画通りに作れないといった要因にもなっているわけです。従

いまして、ここにご質問の中にありますような暮盤の目というような表現をされているわけですが、残念ながらちょっとお答えできる状態ではないということでもあります。まあ、おそらく、ここでご質問いただいているのは公平性を保つ上ということが、ご質問なされた方のポイントがそこにあるんじゃないかという考えでありますけども、まあ、道路、大変いろんな機能を持ちますし、また、皆さんがお使いになる道路であるということでもありますので、私共といたしましても可能な限り市民の皆様のご要望に答えられるよう道路作りにしましても進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。以上でございます。

会場からのご意見・ご質問

青葉台2丁目 男性

道路のことでちょっとお伺ひしたいんですけど、私、今サラリーマンで大東町の方、朝通ってるんですけど、多古満の手前あたりで自動車がラッシュの時間になりますと混んでまして、5分か10分ずっと渋滞してるわけですね。私も40年前広島駅の近くにいまして、マツダっていう会社があるんですけど、東洋工業の本社の前に居りましたんで、やっぱりラッシュの時はですねその当時はやっぱり2~30分バスがずっと止まっているというか家の前で、国道2号線なんですけども。それでやっぱりバイパスっていうの作ったんですよ。いきなり渋滞がなくなって、というような状況もありますので、生活っていうかサラリーマンがやっぱり通勤する時にある程度渋滞に巻き込まれないっていうか、そういう公共資本を整備するってやっぱり市の役目だと思うんで、例えばニュージーランド行った時なんかやっぱり菊川のインターの辺りですと同じ道路で来るとやっぱりそこでつかえてしまう。というような事で例えばニュージーランドですと都市の近くでは4車線の車線をずっとして田舎に行くと道が2車線ぐらいになるというような事で、街の中での渋滞が非常に無くなるというような事で、ある程度道路についてもここはちょっと2車線にするとかそういう事をやられると、今、菊川の状態っていうのは渋滞も非常に少なくてですね良い状態だと思いますんで、ちょっと工夫をすればそういうのが避けられるんじゃないかなと思いますし、先程の説明ではバイパスを作られるというような感じにもみえたんで、その辺の事をバイパスを作られるのかどうか、計画があるのかどうかっていうことをちょっとお伺ひしたいんですけども。

建設経済部長

はい、今、多古満の手前、上平川っていう所の交差点だと思いますけども、

確かに私南の方から毎朝来てますんで、あそこの混雑状態っていうのは十分認識しております。菊川市だ静岡県だって言っても意味は無いんですけども、あそこ静岡県道になっておりまして、従前から上平川の交差点、あそこ右折のレーンがきっちり分かれて無いもんで、右折車が1台いることによって後ろにずっとつながって、奈良野の交差点までつながってしまうと、そういう状況にあります。そういうことであそこの交差点改良をやろうということで静岡県と菊川市と一緒に事業を進めておりますけども、お一人用地の関係で大変複雑な関係がありまして、ちょっと用地が難攻しておりましてスポット的にはあそこの交差点改良が滞っているという状況にあります。まあ、そういった中でさっきバイパスの話なんですけども、奈良野の交差点の所から左の方に見ていただくとお分かりになるかと思うんですけども、山の方に向かって道路を築造しております。あの道路が山を越しまして旧の小笠のですね静鉄のストアが中央公民館、図書館があってそのすぐ東側に静鉄のストアがございますが、その所を通過してさらに南にずっといくという事で、現在の掛川浜岡線の東側をですねずっと通る道路、これ予定では平成の24年、あるいは25年度末ぐらいにはまずはそこをつなげたいということで静岡県と菊川市一緒に事業を進めております。ちょっとまだまだ、時間がかかる話になりますけども、今、言いましたお話いただきましたように渋滞をとにかく解消する、すなわち通過交通をできるだけ外に回して、現在の県道の場所においては本当に生活道路といましようか市内の人が使うと、そういう道路に機能分担をしていくことによって渋滞を解消できるのではないかと、こんなふうに考えておりますのでご理解をいただきたいと思っております。

宮下 男性

5の6ページの5でございますが、JR駅南の今後の見通しについてということでお答えいただいたんですが、菊川駅の反対の北側ですね旭テックの持ち物だった土地、今後どんな見通しどんなふうになっているか、分かる範囲内でできればお願いしたいと思います。

企画政策課長

それではJRの北側につきましては、私の方から説明させていただきます。4月だったと思うんですけども、旭テックさんがですね工場、既に生産拠点としてはもう既に移っているもんですからいわば、空いてる工場があったもんですからその工場の土地約半分くらいをですね、工場の敷地半分くらいを遠州鉄道さんに販売すると、土地を売却するという事で新聞に載ったかと思っております。市の方でも駅周辺の土地利用っていうのは非常に重要な問題だっていうことも

ありますので、まあ、旭テックさんそれから土地を買われたですね遠州鉄道さんともですね意見交換したりしてるんですけども、まず、今の状況ですけども倉庫の取り壊しが始まっております。この取り壊しがですねちょっと今資料持って来なかったんですけども、秋くらいまでかかると聞いております。で、更地となったところで遠州鉄道さんの方に明け渡すということになっています。じゃあ、これからあの土地がどうなるかということでございますけども、ちょっとこれ遠州鉄道さんの方に聞いた話でございますけども、まだちょっと具体的にですね、これを作ろうとかですね、こうしようっていうのがまだ決まっていないということです。なぜかと言いますと結構駅周辺のこの東海道沿線でみていただくと駅周辺であれだけのまとまった土地があるというのは非常に少ないものですから、遠州鉄道さんのお話ですと非常に魅力的な有効な土地だよと、これをうまく開発したいというのが遠州鉄道さんにあるようでして、ただ、土地の形状がですね多少飛び地になっているようなところがあるもんですから、そういう点を含めてですね、遠州鉄道さんとしてはですね例えば住宅と土地をするのか、それとも商業系の事を少し考えようか、それとも商業系と住宅系を両方併せたものを作ろうとかか、まあ、いろんな観点からですね検討されているということで遠州鉄道さんから聞いております。まあ、市としてもですね先程、中山部長の方からですねJRのアンダーが平成24年には通るよということ saying たもんですから、できればですね、そのあたり遠州鉄道さんの方の土地利用が進んでくれればいいなという形で今期待しているところでございます。以上ですけどもよろしいでしょうか。

宮下 男性

ありがとうございました。

閉会（21:40）